

発展途上国、ザンビアの教育事情

～本当の幸せ～

目的: 発展途上国や、ザンビアの教育事情を理解し、アフリカの経済的に自立するためにはどうしたらよいかを考える。貧困が必ずしも不幸せつながることではないことに気づく。

対 象: 中学生以上 1グループの数: 3～5名

時 間: 45分

準備するもの: ハサミ(人数分)、のり(人数分)、貧困・架け橋シート(人数分)、A3の白紙(人数分)、パソコン、プロジェクター、スクリーン

学習の流れ

時間 (分)	学習者の活動	進め方とポイント
導入 (8分)	①『世界の果ての通学路』-youtube. 予告編をみて世界の教育事情を考える。〈教材①映像〉 ②『世界の果ての学校』(ザンビアの教育事情を考える。)<教材②写真>	○発展途上国の教育事情、ザンビアの教育事情を映像資料などを通して現状を考える。 ○感想を発表する
展開① (15分)	③A3用紙を配布する。配布された用紙の中央に大きな円を描く。用紙(4分の3程度) ④各自で負の連鎖・架け橋カード<教材③-1,-2>を切り離す。 ⑤「学校に行けない」を先頭に、次々と派生する問題を円上に並べる。(時計回りに並べる)	○切り離した負の連鎖カードの中にある「学校に行けない」カードを円上(12時の位置)に並べる。 ○カードの順番は原因→結果の関係となるよう考えさせ、つながるように並べていき、最終的に輪(スパイラル)になることを気づかせる。
展開② (15分)	⑥「負の連鎖カード」で学校に行けないことから派生する負の連鎖を考える。 ⑧負の連鎖(負のスパイラル)から抜け出すための解決策を考える。 ⑨自助努力することや、「架け橋カード」解決策<教材③-2>を使い各自で考えたことをまとめる。	○特に正解の順番があるわけではない。連鎖して輪になって抜け出せなくなることを認識させる。 ○「学校に行けない」ことによって生じる問題から悪循環し、負のスパイラルに陥ることをしる。 ○負のスパイラルに陥らないための自助努力や、負のスパイラルのどの部分に支援や技術協力を提供すれば負のスパイラルから脱出できるか各自で考えてみる。
まとめ (7分)	貧困状況に陥ることは怠惰や個人の努力不足はなく、貧困状況に一度陥ってしまうと個人の努力では悪循環から抜け出すことが難しいことに気づかせる。	

次回の予告

負の連鎖(負のスパイラル)から抜け出すための自助努力や、手助けできる援助や支援、「架け橋カード」を各自発表する。※(グループで共有)→(全体共有)

①	 映画『世界の果ての通学路』予告編 なにが近道だよ！	【世界の果ての通学路】 ・『世界の果ての通学路』予告編映像 -youtube. https://www.youtube.com/watch?v=BkTjJLPT2fQ 『世界の果ての通学路』予告編をみて、発展途上国の教育事情を映像資料などを通して現状を考える。												
②	2つの学校のちがいを考えてみよう！  公立小学校 制服を買うことができる  コミュニティスクール (寺子屋) 制服を準備できない	【ザンビア 2 つの学校の授業様子】写真解説・発問例 ・「2枚の写真は2つの学校の授業の様子です。」 ・「なんと！ この2枚は同じ国です。」 ・「同じ国なのになぜ様子が違うか比べて見てください。」 ・「2つの学校はどんな違いがありますか。」 ・「ザンビアでは、日本のような義務教育制度は、小学校までです。公立の学校に通えるのは制服で登校できることが条件です。」 ・「右側は制服を準備できなかった家庭の子供たちです。先生も教員免許がなく、授業中規律がなく落ち着かない様子です。」 ・「このようにザンビアの町外れにおいても制服を買えない多くの子供たちが存在していました。」												
③	負の連鎖カード① <table border="1"> <tr> <td>学校に行けない</td> <td>収入が少ない</td> <td>働くための技術や能力が身に付かない</td> </tr> <tr> <td>仕事ができない</td> <td>食料が買えない</td> <td>自分の子どもが学校に行けない</td> </tr> <tr> <td>収入の安定した仕事に就けない</td> <td>病気になりやすい</td> <td>学校に行く時間がない</td> </tr> <tr> <td>読み書きができない</td> <td>十分な栄養が摂れない</td> <td>子どもが働く手助けをしなくてはならない</td> </tr> </table> 架け橋カード② 	学校に行けない	収入が少ない	働くための技術や能力が身に付かない	仕事ができない	食料が買えない	自分の子どもが学校に行けない	収入の安定した仕事に就けない	病気になりやすい	学校に行く時間がない	読み書きができない	十分な栄養が摂れない	子どもが働く手助けをしなくてはならない	【負の連鎖カード①・架け橋カード②】 ・左側は「負の連鎖カード①」です。右側は自作資料の「架橋カード②」です。この1枚の用紙を各自で切り離します。 ・「学校に行けない」カードを起点としておき、カードの順番は原因→結果の関係となるよう考えさせ、つながるように並べていき、最終的に輪(スパイラル)になることを気づかせる。 ・グループでの意見交換等で他の意見を聞いて「負の連鎖カード」の位置変更ができる。のり付けは最後にする。
学校に行けない	収入が少ない	働くための技術や能力が身に付かない												
仕事ができない	食料が買えない	自分の子どもが学校に行けない												
収入の安定した仕事に就けない	病気になりやすい	学校に行く時間がない												
読み書きができない	十分な栄養が摂れない	子どもが働く手助けをしなくてはならない												
④	※これは45分×2の授業展開での生徒の完成作品です 	【生徒完成ノート】 ・A3程度の白紙を準備し、中央に大きな円を描きます。次に「学校に行けない」カード(赤枠)を1番目におき、学校に行けないことにより生じる問題を次々に並べていきます。(時計回り) ・負の連鎖の状況を見てどうすればこの状況から抜け出せるか！負の連鎖を断ち切るのに何が最も効果的かを考えさせます。 ・「架け橋カード」(青い枠)使って、負の連鎖するスパイラルから脱出できるようなイメージを持って架け橋を渡りきったところに、最も効果的な解決策を記入させます。												

参考文献・資料

- ・JICA 教材作成実行委員会 『国際理解教育実践資料集』 P11, P12, P23, P41 H25-3
- ・映画『世界の果ての通学路』予告編-<https://www.youtube.com/watch?v=RKFfkuozztA> 2015/02/17 視聴



負の連鎖カード①

架け橋カード②

学校に行けない 	収入が少ない 	働くための技術や能力が身に付かない 
仕事ができない 	食料が買えない 	自分の子ども学校に行けない 
収入の安定した仕事に就けない 	病気がなりやすい 	学校に行く時間がない 
読み書きができない 	十分な栄養が摂れない 	子どもが親の手伝いをしなければいけない 

